

岡山版・自然エネルギー 100% プラットフォーム形成事業

活動地域  岡山県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

ユースチーム
意見交流会参加者

41人

学校断熱改修
ワークショップ参加者

45人

今年度計画の達成度

80%

目標達成度

80%



真夏の熱波の中で小学校の断熱改修の様子

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

学生は学年によって部活、塾、受験、就活などがあり、時間の調整が難しい上、新型コロナウイルス禍で対面で意見交換する機会が少なく仲間意識が醸成できなかった面がある。

■工夫した点

若者が気候変動対策を身近なところから進めるために再エネ導入や断熱改修などによる学校の「ゼロカーボン化」をしたいと岡山市長・教育長に直接、提案書を手渡し、訴えた。

課題

再エネ100%社会への理解や関心の希薄。再エネのデメリットを強調したり、取組み方が分からないという声が多い。県外に流出する燃料費を地域内で循環することも必要。

目標

県民、自治体、学校等が再エネ導入への意欲を高める。再エネ等の課題解決にステークホルダーの連携した取組みが増加。ユースチームが自分ごととして活動。

活動内容と成果

- エネルギーの効率化のため小学校の1教室で断熱改修ワークショップを実施。自治体や学校関係者、一般の人も参加、断熱の重要性を認識できた
- 自治体の中間支援セミナーを2回実施。研修を受けるだけでなく、それぞれの課題や状況など忌憚らない意見が出し合えた
- 再エネ100%の暮らし方を広めるためのリーフレットを作成、広く配布
- ユースチームが岡山市長・教育長に「学校のゼロカーボン化」の提案書を手渡し
- ユースチームが意見交流会を主催し、「学校のゼロカーボン化」をテーマに学校でできることを出し合った



若者の思いを直接、岡山市長・教育長に訴え

全助成期間の活動を振り返って

3年前には気候変動対策や再エネの重要性に対する社会の認識はまだ低く感じられ、行政の施策強化や人々の行動変容に繋がればと、様々な活動を行ってきた。2020年に国が2050年のゼロカーボンを表明して以降は県内でゼロカーボンを表明する自治体が過半数を超え重点対策と位置づける自治体が増えてきた。しかし再エネ導入に批判的な声はまだ根強い。社会が納得する形での再エネ普及が必要であることを感じている。



ユースチーム主催の意見交流会での集合写真

〒700-0807
岡山県岡山市北区南方1-6-7
電話：086-232-0363
E-mail: enemira@okayama.email.ne.jp
HP: <https://blog.canpan.info/okayama-enemira/>



今後の展望

4月4日、IPCCが2025年までに温室効果ガス排出量のピークを迎える必要があるとする報告書を公表。時間との闘いはますますタイトになり、一層の取組みが求められている。行政へ気候変動対策の重点化も求めつつ、作成したリーフレットを使って再エネ100%を目指す方法はいろいろあることや行動変容を起こすことの重要性をできるだけ多くの人に伝えていきたいと考えている。